

事業所名

放課後等デイサービスあのね

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

1月

21日

法人（事業所）理念	当社会福祉法人は、福祉サービスを必要とする者が、心身ともに健やかに育成され、又は、社会、経済、文化、その他、あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるとともに、その環境、年齢、及び心身の状況に応じ、地域において必要なサービスが総合的に提供されるよう援助する。					
支援方針	○職員はご利用児の意思及び人格を尊重し、常に児童の立場にたって支援を行う。 ○あのねの特色を生かし、異世代交流、地域交流を通して社会体験の場を広げ、自立に向けた支援を行う。					
営業時間	10時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。 睡眠、食事、排泄を身に着ける方法。食を営む力の育成と楽しい食事への配慮（感覚等）支援（咀嚼、嚥下、姿勢保持等）します。 遊びの中や日常の学習機会を利用した支援、環境配慮を工夫します。				
	運動・感覚	運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援します。 体の感覚は、力加減や、体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。 ミュージックケア・音楽遊びの活動にも含まれます。				
	認知・行動	特性に合わせて、どのような方法、環境の設定であれば円滑に学習できるかを模索し、支援します。 また、「着席」「大人をよく見る」「少し嫌なことへも頑張ってみる」等課題に向く姿勢、力をつくよう支援します。 頑張ると「楽しい」「やってよかった」と感じるように関わり方や内容を工夫します。				
	言語 コミュニケーション	“要求”“報告”“聴く”“模倣”“観察する”など、自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学びます。 言葉だけでなく、ジャスチャーやカードなど、子どもに合った方法を考え支援します。				
	人間関係 社会性	SST（ソーシャルスキル）と言われる支援です。“順番交代”“役割”“ルールを守る”“指示に沿った行動をする”など、社会に適応する為に必要なスキルを支援します。 また、“感情に気付く”“感情に名前を付ける”“対処法を考える”など、気持ちのコントロールを練習します。 また、ストレスが強い状態の時には、子どものペースに合わせて関わり、ストレスを発散する方法を考えます。				
家族支援	○アタッチメント（愛着）の安定 ○家族（きょうだいを含む。）からの相談に対する適切な助言等 ○障害の特性に配慮した家庭環境の整備			移行支援		○他放課後等デイサービス等への移行支援 ○ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備 ○放課後児童クラブ等と併行利用している場合における併行利用先との連携 ○地域とつながりの取組（地域の保育所等、児童館、地域住民との交流・行事等）
地域支援・地域連携	○保育所・学校・医療機関等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取組			職員の質の向上		○事業所内研修・外部研修の派遣等 ○療育・制度、5領域等にかかる読み合わせ等
主な行事等	お花見、夏の水遊び、あのね来展、クリスマス会、人形劇鑑賞、いこい交流、節分、ひな祭り、みかん狩り、身体計測、保護者引き渡し訓練、誕生日会、愛育祭バザー、ハロウィンパーティー、敬老のお祝い、野外レクリエーション、地域交流会、洪水避難訓練、置き去り訓練、あのねフェスタ全体、総合防災訓練、あのね記念日、防災教育、そうめん流し、夏祭り					